

所信表明 岡江保彦会長



2020-21年度国際ロータリーのホルガー・クラーク会長は今年度のテーマとして「ロータリーは機会の扉を開く」と発表しました。赤・黄・青の3枚の扉で構成されたシンボルマークは「ロータリアンの親睦と信頼の上に、ロータリーの門戸を開放して、将来の会員を迎え入れる機会にする」という意味に私個人として解しております。又、RI2580地区ガバナー野生司義光さんは「①会員増強②公共イメージの向上③ロータリーデーの開催」の目標を示されました。

当クラブとしてもロータリーの原点に立ち返り「何を、何のために、誰にするか」を問い直す契機となる年度の奉仕活動を推進します。その観点に立ち、五大奉仕委員会を基軸として、共通する課題を検討する拡大委員会を設置して対応する柔軟性が求められております。

(1) 三大目標について

諸般の事情により前年度末に5名の退会届けを受理いたしました。今年度も諸状況が好転しない限り、多大の期待は望めない面があります。しかし、逆境の中にこそチャンスを生み出す好機があると云われております。

各地区の総人口に対するロータリー会員の割合で最も高いのが北海道で、最も低いのは残念ながら沖縄であります。沖縄は礼を重んじ、ゆいまーる精神（互助）旺盛な県民性を帯有しております。従って「公共イメージ」を高める広報活動及び地域に密着した奉仕活動を通じて一人でも多くの新入会員を迎えることが可能であると確信いたします。

(2) 前年度の申し送り事項について

- ①名誉/栄誉会員の選任基準
- ②中和圓通ロータリークラブとの友好/姉妹クラブ締結
- ③コロナ感染症に伴う暫定処置（休会制度）

(3) (2) について

- ①に関しては、特別委員会を設け、設問いたします。
- ②については、両クラブとも機関決定しており、正式調印が残されております。よって、その方法等については早急に対処いたします。
- ③に関しては、ガバナーの通達によるもので、各クラブが自主的に対応する事になっております。従って、理事会で審議することにいたします。

(4) 55周年記念事業について

今年度は、当クラブの創立55周年を迎えます。周年の節目として記念事業を行うべきかどうか特別委員会を設置して審議いたします。